

1. 学歴

- 1971年 3月 成蹊大学経済学部卒業
1971年 4月 成蹊大学大学院経済学研究科修士課程入学
1973年 3月 同修了(経済学修士)
1973年 4月 成蹊大学大学院経済学研究科博士課程入学
1975年 9月 ペンシルベニア大学大学院経済学研究科入学
1981年 5月 同修了(Ph. D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

- 1970年 日本経済研究センター計量研究部産業班研究助手(1975年まで)
1979年 7月 ラトガース大学経済学部講師・助教授
1986年 9月 富山大学経済学部助教授
1990年 4月 筑波大学社会工学系助教授・教授(同研究科長 1996年6月 - 1997年3月)(1999年3月まで)
1999年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授(筑波大学社会工学系併任 1994年4月 - 2001年3月)
2007年 12月 一橋大学大学院経済学研究科金融工学教育センター(cfee)代表

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

基礎計量経済学, 金融工学概論, 統計学入門など

(b) 大学院

情報処理論 B, 計量経済学特論(ファイナンス), ワークショップなど

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部向け講義科目の「統計学入門」では, 学部 1・2 年次向けであることを踏まえて, 記述統計と確率論・統計学の初歩を講義する。できるかぎりエクセルを使って受講者が実際に統計処理を行えるようになる方向を心がけている。このために授業の中で処理例を多数示すばかりでなく, 宿題に出題して考えてもらうことをしている。また講義ノートやエクセルの処理例は, ほぼ全て「授業のホームページ」にアップロードし学生の便を図っている。また, 統計学の勉強をこの講義の後どのように進めていけばよいか, 受講者に指針を示している。もう一つの学部向け講義である「基礎計量経済学」でも基本的な講義姿勢は同じで, 実際に学生が計量経済学的分析がで

きるようにするため、計量経済学の理論のみならず TSP という計算ソフトを使用して学生の身につくような授業を行うよう心がけている。私が担当する大学院講義科目は大きく分けて(1)計量経済学関連、(2)計量ファイナンス関連、(3)計量経済学手法の計算側面、計算ファイナンスであるが、これらは互いにオーバーラップしている。ここでも基本的な講義姿勢は学部のそれと同じだが、大学院の 400 番台、500 番台の授業相応に理論の割合が増える。また経済分析や金融工学の分野で実際に有用な計算方法を TSP や Matlab といった計算ソフトを使い紹介している。

大学院のゼミナールは、経済統計グループ1年次生のための計量経済学テキストの輪読会と学位論文をまとめている学生のための研究発表会の二つの性格を持っている。また学部生の刺激となることを狙って、学部ゼミナールには可能な限り大学院生に出席してもらっている。なお、ゼミナール参加者は 2007 年度に発足した金融工学教育センター (cfec) にできるだけ多く採用されて充実した施設で勉強に励んでもらうよう指導している。

4. 主な研究テーマ

(1) 計量経済学の方法論、理論

(2) 計量ファイナンス、実証マクロ経済学

まず(1)について：私は、実証・応用における問題点を理論的に解明するという姿勢で計量経済理論面における研究を行ってきた。例えば *Review of Economics and Statistics*, 1979 に掲載された貯蓄関数の論文を執筆していて、回帰係数の時変性をどの様に取り扱うかが問題となったが、その後、当時発表されたばかりの Cooley and Prescott の時変係数モデルを理論的に検討した研究が *Economic Studies Quarterly*, 1981 の論文になった。Ph. D. 学位請求論文では、回帰係数の変化を総括的に扱い、*Journal of Econometrics*, 1982 論文では、*Review of Economics and Statistics*, 1979 当時から取り組んでいた Bayes 的手法でマクロ経済モデルにおける変化する回帰係数の問題を解明した。現在では、2000 年から 2002 年の論文のように Bayes 的手法以外にも bootstrap 等も使い computational econometrics 的な方向を目指し研究を行っている。

次に(2)について：上述のように私の理論面の研究は常にマクロ経済学や実証ファイナンスの分野の問題に動機づけられたものである。貯蓄関数についての *Review of Economics and Statistics*, 1979 論文、政策に関する産出量と物価水準のトレードオフに関する *Weltwirtschaftliches Archiv*, 1989 論文や *Journal of the Japanese and International Economies*, 1993 論文、貨幣需要関数を検討した *Economic Studies Quarterly*, 1991 論文はどれも実証マクロ経済学の範疇に入れてよい。最近では計量ファイナンスに関する研究を行っている。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "The personal savings function of urban worker households in Japan," *Review of Economics and Statistics*, 1979, Vol. 61, pp. 206-213.

『産業金融モデルとシミュレーション実験』(渡辺健一、上野裕也氏と共著)上野裕也編『多部門モデルの開発と応用』に所収、日本経済新聞社、1980年、169-244頁。

* "On Cooley and Prescott's time varying parameter model," *Economic Studies Quarterly*, Vol. 32, 1981 (with Hiroki Tsurumi), pp. 176-180.

"Essays in Varying Parameter Models," Ph. D. thesis submitted to the University of Pennsylvania, May 1981.

* "Consistent estimation of the time varying parameter model," in O. D. Anderson and M. R. Perryman eds., *Applied Time Series Analysis*, North-Holland, 1982 (with Hiroki Tsurumi), pp. 375 -382.

- * "A Bayesian analysis of a random coefficient model in a simple Keynesian system," *Journal of Econometrics*, Vol. 18, 1982 (with Hiroki Tsurumi), pp. 239-249.
- * "Bayesian and non-Bayesian tests of independence in seemingly unrelated regressions," *International Economic Review*, Vol. 29, No. 2, 1988 (with Hiroki Tsurumi), pp. 377-395.
- 「日本の貨幣需要関数の統計的推測」(齊藤吉宏氏と共著)『富大経済論集』Vol. 33, 1988年, 717-736頁。
- "Comparing dimensionality statistics for the vector autoregressions (VAR) method," 『富大経済論集』Vol. 34, 1989 (with Hajime Wago), pp. 661-685.
- * "Price smoothing and demand noise: On business behavior and macromodels," *Weltwirtschaftliches Archiv*, 1989 (with Douglas Shaller), Band 125, Heft 1, pp. 83-96.
- 「回帰分析の基礎の学び方:第5章」刈屋武昭, 佃良彦編『金融・証券数量分析入門』東洋経済新報社, 1991年, 61-74頁。
- * "Statistical Inference of the Japanese M1 and M2 Money Demand Functions," *Economic Studies Quarterly*, Vol. 42, No. 3, 1991, pp. 254-274.
- * "Price smoothing and demand noise: Japanese case," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 7, 1993 (with Douglas Shaller), pp. 32-56.
- * "MICRO-EBA: Leamer's extreme bounds analysis on GAUSS," *Journal of Applied Econometrics*, Vol. 7, 1992, pp. 101-103.
- 「証券市場収益率の予測—幾つかの新しい方法と予測力の比較」『MTEC ジャーナル』Vol. 5, 1992年, 35-48頁。
- 「電気通信事業における幾つかの時系列の分析」『郵政研究レビュー』第4号, 1993年, 179-211頁。
- 「電気通信需要の計量経済学的分析」(中妻照雄氏と共著)『郵政研究レビュー』第4号, 1993年, 213-242頁。
- * "Asset price prediction using seasonal decomposition," *Financial Engineering and the Japanese Markets*, Vol. 1, No. 1, 1994 (with Yasuhiko Takeji), pp. 37-53.
- * "The Japanese stock market and the macroeconomy: An empirical investigation," *Financial Engineering and the Japanese Markets*, Vol. 2, No. 3, 1995 (with Manabu Asai), pp. 159-167.
- * 「先物金利モデルの予測力:HJM モデルを中心として」(浅井学, 高橋利幸氏と共著)『ジャフィー・ジャーナル』東洋経済新報社, 1998年, 151-171頁。
- 「米価と米の供給行動に関する研究—自主流通米市場価格を中心として」(高田しのぶ氏と共著)『多目的データバンク年報』, 1999年, 49-60頁。
- "A New Method of Econometric Model Simulation: Resampling Approach," (竹田智哉氏と共著)筑波大学社会工学系 DP-894, 2000年。
- 「ファイナンスにおける時系列手法—回帰分析における時系列的問題」『証券アナリストジャーナル』Vol. 39, No. 10, 2001年, 78-89頁。
- 「ファイナンスにおける時系列手法—単変量時系列モデル」『証券アナリストジャーナル』Vol. 39, No. 12, 2001年, 84-96頁。
- "A New Method of Econometric Model Simulation: Bootstrapping Approach," (竹田智哉氏と共著) mimeographed, 2002.
- 「ファイナンスにおける時系列手法—単位根を持つ時系列」『証券アナリストジャーナル』Vol. 40, No. 4, 2002年, 97-114頁。

「ファイナンスにおける時系列手法—非線形時系列のモデル」『証券アナリストジャーナル』Vol. 40, No. 7, 2002年, 58-72頁。

「ファイナンスにおける時系列手法—季節性分解法」『証券アナリストジャーナル』Vol. 40, No. 10, 2002年, 83-104頁。

「構造を仮定しない不均一分散の推定」(千木良弘朗氏と共著)『一橋経済学』第1巻第1号, 2006年, 1-13頁。

"Bayesian estimation of unknown heteroscedastic variances," Hi-Stat Discussion Paper No. 185, 2006 (with Hiroaki Chigira), 16 pages.

(c) 翻訳

『計量経済分析:原著第4版』(浅井, 高橋, 中妻氏と共訳) W. H. Greene 著, 2000年。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Bayesian estimation of unknown heteroscedastic variances," 2008 Econometric Society Far Eastern Meeting in Singapore (SMU), July 2008.

(b) 国内研究プロジェクト

「構造をモデル化しない分散構造のベイズ推定」文部科学省 科学研究費補助金基盤研究(C), 2007 - 2008年度, 研究代表者

「文系修士課程における金融工学教育モデル」文部科学省 組織的な大学院教育推進プログラム, 2007 - 2009年度, 代表者

6. 学内行政

(a) 役員・部局長・評議員等

教育研究評議員(2006 - 2007年度)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

国際基督教大学・社会科学科, 国際関係学科(2001 - 2003年度, 2008年度 -)

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

日本統計学会

日本金融・証券計量・工学学会(英文誌編集担当理事, 英文誌副編集者・編集者:1993年 - 2000年6月, 評議員:1993 - 2006年)

日本価値創造 ERM 学会

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

証券アナリストジャーナル編集委員(2006年 -)

日本学術振興会大学院教育改革支援プログラム委員会人社系審査部会委員(2008年度)

9. 一般的言論活動

「文系修士課程における金融工学教育モデル」『HQ』, 2008年, 1月号, 20-21頁。

「ファイナンス教育—私の経験」『証券アナリストジャーナル』, 2008年10月号, 60-68頁。

「大学院教育改革支援プログラムでの一経験」『Agora』(本学大学教育研究開発センター)第16号, 2008年, 3頁。

「金融工学教育の高度化:統計・ファイナンスを中心として」一橋大学『全学FDシンポジウム報告書』第9号, 2008年, 3-18頁。